

## メッセージアウトライン

### コロサイ人への手紙 3:15～17 「キリストの平和」

今までの復習

クリスチャンの捨てるべきもの。→コロサイ 3:8～9 怒り、憤り、悪意、そしり、恥ずべきことば、偽り

新しく身に着けるもの→コロサイ 3:12～14 深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容、互いに忍び合うこと、

互いに赦し合うこと、これらすべての上に愛を着けること

[15]「キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。そのためにこそあなたがたも召されて一体となったのです。また、感謝の心を持つ人になりなさい」

キリストご自身が平和（平安）をあなたがたに残すと言われた。→ヨハネ 14:27

「そのためにこそあなたがたも召されて一体となった」と言われているところから、平和な関係を持ち続け一体となっていくことはクリスチャンに対する神のご命令であることがわかる。

クリスチャンは恐れとか争いではなく、キリストが与えてくださる平和に心を支配され、満たされる必要がある。→マタイ 8:24 このキリストの平和が私たちの心を支配しているならば教会や社会におけるさまざまな対人関係においても平安を持ち、正しい行動をとることができる。

また「感謝の心を持つ人になる」ことも勧められている。神がすべてを支配しておられ、その神のゆるしなしには何事も起こらない。また神は私たちを恵み、すべての事を相働かせて益としてくださる。神は私たちを守り導いてくださる。私たちが救われ、生かされていること自体が神の恵みである。このようなことをよく自覚し、私たちは神にも人にも感謝の心を持つことが大切。

[16]「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい」

神のみことばを心の内に蓄えそれによって生き、行動する。→詩篇 119:105

また個人個人の生活ばかりではなく、教会の交わりの中でもみことばをお互いに分かち合うことも大切。

「知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め」…牧師だけが教えるのではない。信徒どうしが互いに謙遜に教え、互いに戒めあつて健全な教会を形づくっていくことが大切。→コロサイ 1:28

「詩」…旧約の詩篇にそのままメロディをつけて歌ったものと思われる。

「賛美」…神をほめたたえる歌。

「霊の歌」…作者の心からの信仰的感激を表現した歌。いわゆる異言の意味不明の歌ではない。

教会の歴史を見れば常に新しい歌が作られていったことがわかる。感謝にあふれた心からの神への賛美はキリスト教の持つ特長である。

[17]「あなたがたのすることは、ことばによると行いによるとを問わず、すべて主イエスの名によってなし、主によって父なる神に感謝しなさい」

これは今まで学んできた教えのまとめともいうべき個所で、私たちの生活、言動のすべてを「主イエスの名によって」なし「父なる神に感謝する」ことである。

「私たちの行動を試みる最上のテストは『私たちは、その行動をイエスのみ名によって行えるか。主の御助けを願って、その行動をとれるか』と問うことである。私たちのことばを試みる最上のテストは『私たちはイエスのみ名を唱えるのと同じ口で、そのことばを話せるのか』と問うことである。もし、人があらゆることばと行為をイエスの前に持ち出して検討するならば、決して誤ることはないであろう」

ウィリアム・バークレー

(聖書注解者)

私たちもそのようでありたい。